

コミュニティ

community

The New Apostolic Church around the world



2024(令和6)年6月号



正しい祈り方……………2 祈りは役に立つ……………3



日本新使徒教会

正しい祈り方

「私の名において集まり、私の名において願うなら、その願いは適う」と、イエス様は言われました。一堂に会してイエス様の御名において祈る時は、いつでも私たちの真ん中におられ、私たちと一緒に祈ってくださるのです。

イエス様の名において集い、イエス様が私たちのために神様に願われることを、私たちも神様に求めるなら、イエス様も私たちと一緒に祈ってくださいます。但し、イエス様がお求めになるのと同じことをお願いしなければいけません。ですから「神様、お金持ちになりたいんです」と祈っても、イエス様と一緒に祈ってくださらないでしょう。なぜなら、イエスはお金や裕福な人々についてまったく異なることを述べておられるからです。「イエスよ、自分の敵を罰してください」と祈っても、それがかなうことはないでしょう。イエス様の御心に適わないからです。そのような祈りは、イエス様の祈りと一致しないため、かなえられないのです。

イエス様は私たちのために、神様にどのようなことを願ってくださるのでしょうか。ヨハネによる福音書17章24節には次のように書かれています。「父よ、私に与えてくださった人々を、私のいる所に、共にいるようにしてください。」自分の祈りに答えていただきたいなら、イエス



様が私たちのために御父に願ってくださることを、私たちも御父に願い求めるよう努めなければいけないのです。ように。

敬具

A handwritten signature in blue ink, consisting of a stylized, cursive script that is difficult to decipher but appears to be the name of the author.

ジャン＝ルーク・シュナイゲー



テサロニケの信徒への手紙—6章17節

「絶えず祈りなさい。」



2024年1月7日、ジャン＝ルーク・シュナイダー全使徒は、スイスのパーゼルで、今年最初の礼拝を司式しました。

祈りは役に立つ

「栄光の王国へ至る道を示してください。」親愛なる兄弟姉妹の皆さん、私たち全員がこのように祈りを献げたことにより、非常に良い形で、新年を迎えることができます。私たちにとって人生における目標は一つです。それは神様の栄光です。私たちの目標は、自分自身の幸福や成功だけではありません。それよりもはるかに大きな目標があるのです。私たちは栄光の中に入りたいのです。神様との完全な交わりに入りたいのです。これは私たちの決意であり、年が改まってもこの目標に変わりはありません。主の日には神様の王国に入り、神様との交わりを持ちたいと願っています。

これは夢や願望ではありません。イエス・キリストの再臨は、偶然の出来事ではないということです。それは聖なる事実であり、ただ誰かが私たちに約束したことではありません。神と聖霊が主の日について語られる時に、ご覧になるものを描写しておられます。理解が難しいですが、神様にとって未来も現在も同じく、今です。神様にはすべてが前にあります。時間に縛られません。神様がイエス・キリストの再臨について語られる場合、すでに見えているもの、実現しているものを描写しておられます。これは私たちにとって慰めです。曖昧な約束ではありません。いつかは実現します。日付はわかりませんが、絶対確実に実現します。ですからこのような祈りを「栄光の王国へ至る道を示してください」という祈りを献げます。どうすれば栄光の王国へ到達できるのでしょうか。

王国に入らせていただけるのでしょうか。このような祈りには、聖霊が常に答えてくださいます。聖霊はイエス・キリストを指し示されます。イエス・キリストこそが道です。もし神様の王国に入りたいなら、イエス・キリストが再びおいでになった時に引き上げられる者たちの一部になりたいなら、イエス・キリストが開かれた道を進む必要があります。キリストの教えと生涯がその道です。キリストを模範し、その教えに従いましょう。そうすればキリストの再臨に備え、目標に到達することができます。今年、何が起ころうとも、私たちは神様に近づいて、道を示してくださいようお願いします。すると、聖霊はイエス・キリストを見上げ、キリストの福音に注目し、それを実践するよう、私たちにお告げになります。これが道です。

イエス・キリストの教えが持つ重要な要素は、祈りです。いつも、絶えず祈りましょう。イエス様は、このことを説明するために多くのたとえを用いられました。例えば、終末について語る時には、やもめと裁判官のたとえ話をされました。常に祈りましょう。祈りをやめないでください。祈ることも王国へ至る道の一部です。祈りは、主の日に向けた準備の重要な部分です。それ故「祈りは役に立つ」が今年の標語なのです。聖霊は絶えず私たちに道を示してくださいます。実際にはそれだけではありません。神様は道を示すだけでなく、「心配しないで。あなたが歩む道の途上で、私はいつもと共にいる」

と約束してくださるのです。

パウロは別の説明をしています。イエス・キリストについて、「復活させられた方が、神の右におられ、私たちのために執り成してくださる」と言っています。何が起ころうとも、イエス・キリストは私たちのために執り成してくださる—私たちは、御子が御父の許に行き、「その人を助けてください、赦してください」とお願いされるのか、と想像してしまいます。それは、神様の三位一体性に関する私たちの理解と少し相容れないかもしれません。御父が考えておられることについて、イエス様が「いいえ、それはやめてください。この人を憐れんでください、あの人を助けてください」とおっしゃるのか、と私たちは考えますが、そうだとすると、イエス・キリストによる私たちの執り成しに、御父が考えを変えて、ご計画を変えられることとなります。私たちは、神様が御父、御子、御霊という、完全に一致した三位一体であることを知っていますし、そのことを信じています。つまり—そしてこれこそパウロが言おうとしたことですが—神様は常に私たちを助け、赦してくださるといことなのです。パウロは「御子なる神様であるキリストが私たちのために執り成してくださる」と言いましたが、これは、「神様は今年も—無条件で、そして絶えず—私たちを助け、赦してくださる」といことなのです。これ以外に意味することはありません。神様はいつでも私たちのために体制を整え、近くにいてくださいます。これがパウロの言おうとしたことです。

またパウロは、「言葉が見つからなくなったら、聖霊が祈り、私たちのために執り成してくださる」とも言っています。聖霊は三位一体なる神様の一部です。これは、「私たちの魂が待ち望む^{うめ}呻きを、いつも神様は聞いていてくださる」といことなのです。やはりこれ以外の意味はありません。私たちが祈るための適切な言葉を見つけられなくても、神様はいつも私たちの痛み、苦しみを感じ取っておられます。神様は必ず私たちのことをご存じでいてくださいます。ただの嘆息であっても、私たちの祈りを聞いてくださいます。いつも聞いてくださるのです。私たちがやっていることに興味をお持ちであり、私たちの抱えている問題をすべてご存じです。すべての悩みが神様にとって重要です。神様はいつも私たちの近くにおられます。道を示すだけでなく、私たちに自信を付けさせ、こう約束されます。「心配しないで。あなたの近くにいるから。」

「絶えず祈りなさい」という今回の聖句に話を戻しましょう。これは、毎時間一昼夜祈っていなさい、ということではありません。そんなことは誰もできません。少なくとも私には無理です。私にとって毎回やらなければいけないのは、もっと違うことです。「絶えず祈りなさい」とは、あらゆる状況で祈るといことなのです。これは、私たちの状況、環境、必要性、恐怖、困難によって私たちの祈りが左右されるものではない、とい

うことに他なりません。私たちの祈りは、神様と私たちとの関係がもたらす結果なのです。この点が違うのです。

多くの人が祈るのは、自分が危機的状況に陥った時です。急に、頼れる存在を思いつくのです。「絶えず祈りなさい」とは、神様と私たちとの関係に基づいて祈りなさい、ということです。私たちが祈るのは、神様を信じ、神様が全能であることを知っているからです。神様に不可能はありません。私たちは神様の愛を信じます。神様は私たちを愛しておられます。神様が自分を救ってくださるといことを、私たちは信じます。ですから常に神様に立ち返るのです。神様を心から愛しているので、神様に話しかけたい、神様の許に行きたい、会話や祈りの中で神様と交わりたい、と思うのです。それも神様を愛しているからに他なりません。私たちは神様との接触を維持する必要があります。自分の状況に関係なく、神様を信じて愛する気持ちから、絶えず祈りましょう。神様への信仰と愛は、私たちにとって、祈りの基本です。

神は今年も我々に 寄り添ってくださる

祈りは役に立ちます。祈りには効果があります。このことをいつも心がけておきたいものです。祈りの効果について、もっと飾った言い方をしたいとは思いません。祈りが持つ様々な要素を見て、どうすれば祈りが役立つものとなるのかを考えてみましょう。

^{あが}崇めは、祈りの中で重要な要素です。兄弟姉妹の皆さん、かつては必ずしも崇めが祈りの一部とされてきたわけでないことを、私は承知しています。若い時を覚えています、崇めは中心的な位置づけをされておりました。フェーア主使徒とレーバー主使徒の時によりやく変わりました。お二人はこの崇めの問題を取り上げました。神様を崇めることは、祈りにおいてとても大切な一面です。今年も、神様について考え、神様の本質に興味を持つための時間を確保しましょう。一歩引いて考える時間が必要なのです。神様とはどういうお方なのかを考えることで、神様の全能性について注目することができます。どういうことでしょうか。神様は創造主であり全能者です。完全なお方です。人は簡単にそう言いますが、神様の完全性にはもっと多くの要素があります。神様には過ちが絶対がありません。神様がなさることはすべて完璧です。完全の必要性は全くありません。その言動は永遠から永遠まで、すべて完全です。全能の神、完全の神、威厳ある神、愛の神です。神様は私たちを愛してくださるだけでなく、ご自身そのものが愛です。神様には私たちを愛することしかできません。神様の本質なのです。折に触れてこのことを観察すると良いでしょう。するとそれが私たちにも良い方向に作用します。神様と健全な関係を持つことができ、神様への畏敬の念が生まれます。神様はなんと偉大で、私たちがなんと小さな存在かを悟ります。権力のある人、声の大きい人は、とても小さいのです。

その一方で、強い信頼感が芽生えます。「全能で完全なお方が、自分を愛してくださる。神様を全面的に信頼するには十分な理由だ。」この愛という側面だけで、私たちは神様への思いが沸き上がります。一つは、謙虚さ、神様への畏れ、尊敬であり、もう一つは信頼と自信です。祈りは役に立つのです。崇めは私たちに影響を与えます。私たちの心に何かを引き起こすのです。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、毎日する必要はありませんが、定期的に時間をかけて、神様を崇め、神様の本質に注意を傾けましょう。これは私たちに前向きな影響を与えますし、神様を愛し、信じ、神様に信仰によって従う人々は、これによって、イエス・キリストの再臨に向けて、しっかり準備することができます。

祈りにおけるもう一つの要素に、感謝があります。感謝することは、非常に重要です。今さら皆さんに申し上げたくはありませんが、もしかしたら今年はまだ少し熱心に神様に感謝し、神様が私たちにくださったもの、私たちのためにしてくださったこと、してくださっていること、そしてこれからしてくださることに、焦点を合わせることでよいかと思います。私も承知していますが、人はいつも、自分の持っていないもの、まだ持っていないもの、もはや持っていないもの、不足しているものに目が行きがちです。

私のように皆さんも外国を訪れると、人々の不満は彼らの経済状況と無関係であることがわかります。たくさん持っても不満が絶えない人もいます。何も無いのに幸せな人々もいます。要するに、満足か不満かは、資財の有無に関係ないということです。満足は心の姿勢の結果です。多くを持っているのに、全然満足しない人々もいます。霊的な面に当てはめることによって、神様がくださったものに注意を払っていただきたいと思います。

崇めとは、すべては神様から出る、ということです。すべてが神様から出るということは、私たちが持っているすべてのものも、神様から出るということになります。このことに感謝するならば、私たちの心に喜びが生み出されます。この世で珍しい喜びです。この喜びによって満足が生まれ、私たちの情緒も必ず安定します。強く生きることができます。感謝する人はしない人より強いです。神様がこれまでにくださったあらゆるものを覚えているため、そう簡単にはぶれないのです。人生が安定しているのです。そういうわけで、感謝は私たちに大きな効果をもたらす、祝福となります。今年は感謝することに、時間をかけましょう。

私たちが神様の許に伺う時は、願い事も携えていきます。開会の賛美歌に「祈りを通して神様のところへ行って、すべてを申し上げます」という歌詞がありました。この部分に

ついて、個人的に多くのことを考えさせられます。祈りの生活を送ることが至る所で軽んじられているのではないかと、神様とあまり話さなくなってしまったのではないかと心配しているのです。祈る時は、必ずしもベッドや祭壇の前などにひざまずいて、言葉に出さなければいけないわけではありません。思考において神様と対話することもできます。兄弟姉妹の皆さん、この機会を利用して神様と話しましょう。ソーシャルメディア上では、様々なこと、様々な人についてたくさん論じられたり投稿されたりしています。お祈りしてみてもいいですか。神様との対話はいかがですか。兄弟姉妹の皆さん、いつでも神様のところに行って、洗いざらい、本当に洗いざらい、恥ずかしがらず、怖がらず、遠慮しないで、すべてを申し上げます。嬉しい時、頭にきている時、いらいらしている時、ツイてない時でも、思考の中で祈りの中で神

様に話しかけてください。「神様、悩みがあります。私は〇〇について心が動揺しています。彼女が俺を侮辱したんです。理不尽です。」神様に祈って、率直に話してください。効果がきめんです。神様はいつでも時間を確保してください。ふつう、他の人には皆さんの話を聞く時間がありませんし、五分たったら皆さんに興味がないことを思い知らされます。しかし、

主はいつも時間をとっています。このことがわかると、嬉しいのです。いつでも主のところに行くことができます。彼は皆さんのために時間をとってくださいます。皆さんの話を聞き、皆さんのことを理解してくださるのです。

崇めと感謝を同時に行うと、祈りに何かが実ります。私たちは神様に語りかけます。全能者に語りかけます。完璧且つ愛に満ちた方に語りかけます。すると、神様が自分を理解してくださっていることに気づくのです。そして全能で完璧であり、愛であり、救い主ですから、正しいことをなさいます。そして私たちを助けてくださいます。助けてくださらないはずがありません。私たちが必要なことや、私たちにとって最良のことを、私たち本人よりもずっと良くご存じなのです。

崇めとは、神様は救い主である、ということです。それにしても神様は何を望んでおられるのでしょうか。このことについて考え、自分の悩みや心配を神様に打ち明けると、神様は私たちが永遠に一緒にいて欲しいと望んでおられるということが分かります。イエス・キリストはご自身のいらっしゃる場所に私たちをおらせたいと望んでおられます。このことについて考えれば考えるほど、ますます御心を行わなければならないということが分かってきます。そして私たちは彼の御心に従うことをもはや諦めず、確信をもって、時には熱意をもって、行います。「愛する主よ、御心が成されますように。私は何を望みかを知っています。私の救いを願っておられます。永遠の幸福に与ることを願っておられます。苦しみも死も痛みもない御国に導くことを願っておられます。」ですか

神を崇めることに いつも時間をかけよう



ら「御心が成されますように」という祈りは、素晴らしい慰めと力の源になります。神様を崇め感謝した後に、良くないことをすべて話し、お委ねします。すると聖霊が答えてくださいます。神様がどのようなお方で、何をお望みかを思い出してください。「御心が成されますように。」

地上におられた時のイエス・キリストには、自分が願うものを神様は必ず与えてくださる、というしっかりした保証がありました。素晴らしい保証でした。「父に願うものを父は与えてくださる」という保証がイエス様にはありました。しかもその通りになったのです。なぜでしょうか。それは、主イエスがいつも、神様が与えようとお考えのものを神様にお求めになったからです。「イエス様はすばらしい発想をなさったんだな」と私個人は思います。神様は常にイエス様の声を聞かれました、なぜならイエス様は常に、神様がご自分に与えようとお考えのものを、お求めになったからです。私たちも同じようにしましょう。何よりも、神様が私たちに与えようとお考えのもの、すなわち救い、贖罪、祝福を賜るようお願いしましょう。そうするならば、神様は必ず私たちの話を聞いてくださるでしょう。

ですから、私たちの願い、悩み、恐れ、困っていることを率直にすべて、神様に打ち明けましょう。必ず助けてくださいます。そして、神様の助けこそが、私たちの受け取ることができる最善のものです。

最後に、執り成しについてお話します。これは現代におい

て重要な点ですね。私たちは盲目でないということを申し上げたいのです。私たちの周りを見回すと、家族や教会、世界中で、多くの苦しみがあります。礼拝前、教役者たちが私に話してくれましたが、この教区でも、大変な苦悩に直面している兄弟姉妹がいっぱいます。実はどこも事情は同じで、私は大変心配しています。無関心で「まあ、そんなものさ」などと言っている場合ではありません。では、どうすればよいのでしょうか。家族のために祈ることができますし、会衆のために祈ることもできますし、他の人々のためにも祈ることができます。執り成しはとても大切です。私たちにとって、イエス・キリストの再臨に向けた準備の非常に重要な部分です。イエス様は、ご自分に従いご自分の意志を行う人々を、御許に連れて行ってくださいます。ご自分の意志とは「自分を愛するように隣人を愛しなさい」ということです。この戒めだけでも執り成すことが必要になります。私たちは自分自身のために祈っています。そして自分を愛するように隣人を愛しています。ですから他の人々のためにも祈りましょう。この人たちも健やかに生きてほしいと思います。一緒に幸せになり、一緒に悩み、一緒に畏れ、一緒に困るのです。他人を愛するからこそ、その人の運命に共感し、その人のために神様に祈るのです。ですから、執り成しは役に立つのです。

「でも、必ずしもそうではない」という人もいます。それは分かります。私も多くの兄弟姉妹のために祈りましたが、その方々は亡くなってしまいました。神様はその方々を癒してくださいませんでした。私はある国々について、何十年も平和



を祈ってきましたが、気付いてみると、状況がますます悪化しています。「人々は大変な苦しみと困難の中で生活しています。神様、何かしてください」と祈っています。しかし、何も起こりません。餓死する人までいます。「執り成しは良いことだが、まったく役に立たない。」しかしそれは人間の歴史であり、人間の理性なのです。

崇めについての話に戻しましょう。私たちは崇めをどのように捉えるべきでしょうか。皆さんが祈ります。会衆が祈ります。会衆が祈ると、主が執り成してください。ということは、その執り成しの実現方法を計画なさっているのに、皆さんが祈りを通して主に近づくと、御心やそのご計画を変更なさるといのでしょうか。真剣に考え始めたら難しいです。私たちが祈ることによって、「あなたたち全員が祈っているから、その人を助けて、状況を好転させてあげよう」と神様がおっしゃると、皆さんは思うのでしょうか。そうだとしたら、私たちが隣人を、神様以上に愛しているということになり、私たちが執り成したから、神様がお考えを変えて、状況を変化なさったということでしょうか。執り成しがいつも役立つわけではないということ、私たちは経験から教わっています。皆さんの信仰で執り成しは不可能だと、私たちの心が言ってきます。しかし、それに対して、自分の心と経験に対して、「私には理解できませんし、経験にも反していますが、私はそれを信じるのです」と言わなければいけません。主イエスは地上におられた時に、私たちのために祈ってくださいました。初期のキリスト者たちは互いに祈り合いましたし、初代の使

徒たちもそうしました。パウロはしばしば教会に「自分のために祈ってほしい」と訴えました。執り成しが全く無意味なら、聖書には書かれていないでしょうし、主イエス、パウロ、ペトロ、エルサレムの教会も、執り成しなどしなかったでしょう。ですから、執り成しは役に立つのです。聖書に書いてあります。私たちは人々のために祈るべきです、信じて祈るべきです。執り成しがどのように役に立つのか理解していなくても、そして役に立たなかった経験を私たちがしていても、人々のために祈るのです。他の人を愛するが故に、私たちは彼らのために祈る必要を感じるのです。執り成しはまず、その祈りを献げる人に影響を与えます。私たちが時間を割いて人のことに興味を持つと、その人の困難が私たちのものよりもずっと大きいことに気づきます。その人も、私たちが享受しているのと同じような幸福を受けてもよいはずなのに、困難に遭っているのです。このことについて考えましょう。私たちの兄弟姉妹や世界の他の人々を見ると、彼らは、少なくとも私たちと同じくらい善良であることが分かりますが、私たちが持っているものを持っておられないのです。すると、恵みというものが実際に何を意味するかが分かり始め、感謝の気持ちが強くなり、「これは神様が私にくださった恵みの賜物である。自分はこのようなものをいただけるような者ではない。なぜ、彼や彼女でなく、自分いただけるのか。愛する主よ、本当にありがとうございます。」これによって、私たちは恵みの持つ意味をもっと良く理解できるようになります。そして、神様に、信頼と崇拜の念を持って、祈るのです。神様は愛であり、自分と同じように、自分の隣人を愛されます。神様は隣人が

どうしているかをご存じであり、彼らを助けてくださいます。これは可能性や確率ではなく、確信の域に達するものです。神様は助けてくださるのです。この確信が私たちを強めます。私たちは神様を全面的に信頼しています。神様は隣人を助けてくださいますし、隣人にも御心が行われるでしょう。そして、隣人にとって、人類にとって、あらゆる問題に対する唯一の解決策は、主の再臨、救い、新しい創造であるということ、私たちは悟ります。この地上で何が起きているかについて私たちが考えれば考えるほど、この確信は強くなります。実際、隣人の、あるいは人類の抱える問題に対する唯一の解決策は、神様による贖いのご計画であり、神様が一度この悪から人類を救い出すことです。これが分かると、神様による贖いのご計画が理解でき、神様がそもそもなぜこうした一連のことをなさっているのかをすべて理解することができます。新しく創られ、永遠に神様と共に生きる—これが人類の抱える問題に対する唯一の解決策です。ここから結論が見えます。私たちにとって、執り成しがもたらす結果は、感謝、恵みについての深い理解、神様が助けてくださるとする信頼、救いのご計画に焦点を合わせることで。

執り成しは私たちだけでなく、隣人の助けにもなります。私たちは神様から約束をいただいています。そして、神様が祈りに答えてくださることを確信しています。神様は隣人を助けてくださいます。誰かが自分のために祈ってくれていると分かれば、励みになります。自分に関心を持ち、共感してくれる人が今でもいてくれる、とすることができます。これはとても重要なことです。今時、自分に関心や共感を示してくれる人など、そうはいません。自分のために祈り、自分と一緒に苦しんでくれている人がいると分かると、慰めになります。さらに慰めは信頼を強めます。神様が信徒たちを助けてくださる、と私たちが信じることによって、彼らの信心を強くします。すると、とても不思議なことが起こります。説明することはできませんが、私自身は毎日経験しています。祈りの手によって運ばれているように感じるのです。たとえばきれいですが、理屈では説明できないのです。しかし、これを経験する人がいるとすれば、それは私です。多くの兄弟姉妹が私のために祈ってくれていることを知っています。誰が祈ってくれているのかは分かりません。何人の人が祈ってくれているのか、どこで祈ってくれているのか、全く分かりません。しかし、一つだけ分かっていることがあります。兄弟姉妹の祈りによる支えを感じていることです。これを説明することはできません。ただ、事実なのです。私は、非常に苦

しい状況にある兄弟姉妹をたくさん知っています。しかし彼らはこう言います。「幸いなことに、兄弟姉妹が私たちのために祈ってくれていることを知っています。祈りによって支えられているのを感じます。」執り成しは役に立つのです。それに加えて、神様が助けてくださるとする確信があるのです。

崇め、感謝、嘆願、執り成しには効果があります。そのことに思いを巡らしながら、一同で祈りましょう。例えば、主の祈りを一堂に会して祈ることによって、教会の一致が強まります。このことを私たちはもっと考えるべきです。一緒に祈ることで、神様の恵みに依存していることを、私たち皆がはっきり自覚します。神様に「私を憐れんでください」と申し上げることによって、一致を強めます。私たちすべてには、同じ目標と「私に道を示してください。私たちの一致を強めてください」という共通の願いがあります。これからは、一緒に祈ることにもっと重きを置きましょう。祈りは役に立ちます。



まとめ

- 聖霊は私たちに祈りを促されます。
- 主は私たちのために祈ってくださいます。
- イエス様の御名において祈ることは、私たちの救いのためになります。
- 私たちは一緒になって祈ることで、教会の一致が強固になります。

コミュニティ

2024(令和6)年6月号・日本新使徒教会発行

日本教区主任牧司：門平 彰弘 (E-mail: kadohira.nac@icloud.com)

〒206-0014 東京都多摩市乞田 1320 (新田) Tel. 042-374-0070 (日本教区)

新使徒教会国際本部： <https://www.nak.org/>

新使徒教会西太平洋教区： <https://www.nacwesternpacific.org/>

新使徒教会日本教区： <https://www.nac-japan.org/>

写真版權

Frank Schuldt (p.1)

新使徒教会国際本部 (p.2)

スイス新使徒教会 (p.3, 6, 7, 8)

日本語版作成：松岡利恭